

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1970800528
法人名	社会福祉法人 三井福祉会
事業所名	(社福) 三井福祉会 ナイスケア「檜の木」
所在地	〒 400-0125 山梨県甲斐市長塚157-3 電話番号 055-277-1102

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成20年7月31日	評価確定日	平成20年8月28日

【情報提供票より】平成20年7月17日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成12年10月12日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	9人	常勤	7人 非常勤 2人 常勤換算 3.2人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	1 階建ての 0 ~ 0 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	32,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	■有(96,000) □無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	■有(100,000) □無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1500 円			

(4) 利用者の概要 平成20年7月1日 現在

利用者人数	12 人	男性	2 人	女性	10 人
要介護1	5 人	要介護2	3 人		
要介護3	1 人	要介護4	2 人		
要介護5	1 人	要支援2	0 人		
年齢	平均 85 歳	最低	63 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	斉藤循環器科医院 すえき歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年8月12日

8年前に開設し、事業所周辺の住環境が変わり、市街地化に伴い幹線道路に面するようになった。しかし、奥まって立地しているためホーム内は静かで、広い裏庭には古木の檜の木が四季折々ホームを見守っている。平屋の2ユニットとして建造され、各リビングがワンホールになるよう移動式の壁で仕切られイベントなどの交流の場となっている。管理者は兼任で、各ユニットごとに計画作成担当者と職員が配置され、会議や外出支援などが行われている。利用者の希望や意向を把握するために、本人の口から洩れた言葉を全て記録するシステムで、個人の希望や変化を見逃さない、柔軟な介護支援を目指し取り組んでいる事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題と今後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 市町村との連携を積極的に図り、他市の住民の入居依頼の件、加算についての情報、また20年4月からショートステイ(一か月間の利用可能)を始めるにあたり、指導や助言を受けるため、頻繁に連絡を図り関係を深める事ができた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 各ユニットに一部ずつ配布し、職員全員で話し合った評価が、管理者の元集まり、全体の自己評価となっている。また、その結果として、職員の利用者に対し観察する姿勢が変わってきたことは、意義ある評価への取り組みであった。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議のメンバーに地域の代表者の参加を依頼し、非常災害時の地域との関係をどのように築くかが課題であったが、地域住民と一緒に避難訓練が実行できたことは、大きな力と安心を確保する事につながった。また、ボランティア活動の要請も会議で議題としたことから、地域からお祭りへのお誘いや、ボランティア要請を自治会へお願いすると、協力が得られることの確約が得られた。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の面会時の意見や電話での対応は全て記録し、それを利用者ごとにまとめ、家族の思いを把握するようにしている。苦情を受けた場合は、まずは原因を探り、家族へ説明し理解していただけるよう取り組んでいる。その後ユニット会議やスタッフ会議に図り、今後に向けての対応方法を検討する体制はできている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 挨拶程度であった地域との関係が、18年度より2か月に1回運営推進会議を開催するようになり、徐々に距離が近くなってきた。しかし、受入れ体制が磐石でなく、地域資源をどのように活用するかが今後の課題となっている。地域の婦人部への支援への要請、災害訓練など地域のボランティアの受入れ体制など具体的な方針が望まれる。

2. 調査報告書

事業所名： ナイスケア檜の木

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとなり、管理者・職員は地域との関わりを、今一度考え直す時と心得、それに伴った理念を検討中である。	○	18年度から、地域の住民との関わりが芽生えつつあることから、受け入れる体制を全職員で検討し、現状にあった理念の作成が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	これまでの理念は、日々の業務の引継ぎや、月に1回のスタッフ会議やユニット会議などで共有しているが、新しい理念の実践は、これからの課題となっている。	○	新しい理念を職員を含めて作成し、言葉かけや態度など日々の生活支援の中で活かす取り組みが期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議を開催し、挨拶程度であった地域との関係が、徐々に距離が近くなってきた。しかし受け入れ体制がまだ磐石でなく、地域資源をどのように活用するか今後の課題となっている。	○	現在の地域の婦人部の来訪、夏祭り、災害訓練の折のボランティアの協力などをより活かすように、地域との関係を確かなものにする具体的な取り組みが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニットごとに全職員で話し合った評価が、管理者の元に集まり、自己評価をしている。全職員で評価の意義を話しあうことで、利用者に対する姿勢が変わってきている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議の担当者は、議題の提供に苦慮する事もあるが、回数を重ねるごとに、認知症の問題を知りたい旨の要望があることや、ホームの行事に地域の婦人部の来訪や、お祭りのお誘いもあった。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居の際の困難事例や、加算の説明など常時、問題点を相談している。また、今年の4月からショートステイ(一か月間の利用可能)を始めるにあたり、市の指導を受けたり、相談にのってもらいなど連携を図ることができた。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「どんぐりだより」を年に4回発行している中でお知らせし、また面会時やホームページでも暮らしぶりを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会や電話での対応は全て記録し、ミーティングで取り上げている。また家族との間で、行き違いがあり苦情となった事例に対し、家族へは誠意を持って対応し、職員はユニット会議を開き改善に向け取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動や、出産、自己事情など離職の理由はあるが、担当者が代わることは、利用者への影響が大きいので、できる限りダメージを解消する事に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修として、感染症、ノロウイルス、インフルエンザ等を流行に先立ち実施し、パートの職員を含め研修を受けている。また、レクリエーションや認知症等の外部の研修を受けた職員により他の職員へ会議などで伝達研修をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市から交換実習などサービスの質向上につながる旨のアドバイスはあるが、実施はまだである。職員の勤務体制の都合など、諸事情があり交流はこれからの取り組みとなっている。	○	同業者を自分の事業所へ受入れることや、他事業所の研修に参加し刺激を受けることは経験済みだが、今後の取り組みとして積極的に同業者との連携を図ることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずは家族がホームの様子を見学した後、本人を2～3日お茶のみの体験に招き入れ、利用者とは話をしたり、職員と馴染みの関係を築いてから利用につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜の切り方、昔の歌、裁縫などを職員は教えてもらいながら、様々な話の聞き役になり、一つの家族の一員として、喜びと生きがいにつなげていくよう取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時に、生活歴やADL,好き嫌いの状況、毎朝新聞を購読したい希望などを情報収集し、また日常の思いや口から出た言葉を記録することによって、利用者の気持を把握するよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各担当者と、計画作成担当者がケアプランを作り、目標、課題、期間、内容、評価と分けてパソコン上で介護計画がたてられる。職員は、介護計画に基づいた実施状況を「ケア記録簿」に記録して、それを家族へ報告している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	カンファレンスを兼ねたユニット会議を月1回開催し、利用者の声、散歩等の要望をケアサービスの記録へ、変化の状況を個別ケアに記録し、それら記録に基づいて変化があれば随時見直し、普通は3か月に1回、変化がなければ1年に1回である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の理美容院を利用する際の送迎、鉢花を購入して育てる楽しみなど、現在実施している支援とは別に、利用者ごとの要望を多機能的に柔軟に支援する事とはなにかを、事業所自ら課題としてとらえている。	○	職員の勤務体制など難しい面もあるが、できるだけ個人の気持を尊重し、無理なく寄り添い、要望に対応する姿勢で取り組むことが望まれる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に受診する利用者が多く、通院の送迎は家族が行うことが利用開始時に決められている。遠い利用者は協力医に受診するが、家族と連絡を取りながら、夜間や緊急時などと同じく事業所側が対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人の看護師が週に2～3回、注意の必要な利用者の健康状態はチェックしている。しかし重度化した場合や、ターミナルは取り組んでいないことを利用開始時に伝えているが、家族の気持の動きを、汲み入れる難しさを感じている。	○	家族の気持が変動したり、家族の受入れ体制が不十分な時など、終末期の迎え方が、利用開始時の話と違って来る。段階に応じて、家族と情報を交換し、双方で方針を確認し共有することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護度の重さなど個人ごとに差があることから、利用者の状態に応じて、プライバシーに配慮しながら言葉かけや介助に取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自ら言葉で表現できない利用者のペースをよく把握し、個人のスタイルにあわせ介護している。また、利用者が洩らした言葉や希望を記録に残し、日々の暮らし支援につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	2ユニットで交互に食事を作り、職員も一緒に食べながら、さりげない言葉かけをしている。イベント時は、買物から利用者が中心になり、皮むきや、扇いだり混ぜたりと、食事を作る喜びを味わう機会としている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	手摺りつきの家庭的なお風呂は、毎日朝から夕方まで沸いており、自立の人は好きな時間に入ることができる。体の不自由な方は、イスを利用したシャワー浴が可能である。どちらも職員は見守りは欠かさない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事に向け配善やテーブルを拭いたり、メニューをボードに書く役割もある。また、庭でバーベキューを企画したり、ユニットごとにドライブに出かけ、桜見やイチゴ狩りなど張り合いや喜びのある日々を過ごせるような支援となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族と共に外出する人、2か月に1回の外食、また散歩を兼ねた隣地のドラッグストアの買物は日課となっている。体が不自由になり外出できない利用者には、ベランダで日光浴の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	周りの環境の交通事情や、ハード面で玄関入口が死角になることから、安全のため開放されていない。また日常生活の大半を過ごすホールから、芝生の庭に出られ、環境は整っているが十分な活用が見られない。	○	南面のホールの窓は、職員が目が行き届く範囲であり、外には古木の檜の木や、芝生も手入れされている。花や野菜を育てるスペースも十分あることから、利用者の生活の質を高めるための支援として取り組みが期待される。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域との関係がようやく築かれようとしているが、本格的な災害訓練や、地元消防団員との協力はこれからである。	○	地震、また火災や水害災害も含め、地域住民のパワーを大切に、大きな安心につなげていただきたい。運営推進会議や地域のボランティアと、早めに協力体制を整える話し合いが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はバランスを考えながら職員が作り、法人の管理栄養士の助言も得ることができる。水分や残量は記録され、摂食障害のある利用者にはミキサー食に変えたり、又高カロリー飲料で補充し、状態に合わせて取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2ユニットがホールで合流し、間仕切りで仕切られているが、イベント時などは開放し交流が出来ることになっている。テレビ、サイドボードやお花の鉢が置かれたり、壁には手作りのカレンダー、利用者の書いたその日のメニューなどもかけられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の馴染みのダンスや持ち物を配置し、住み心地の良い部屋としている。壁には孫の絵や写真を飾り、洋服などもハンガーにかけ、さりげない日常生活の場所となっている。		